

須佐の歴史年表

時代	西暦	年号	北朝の年号	日本の情勢	防長を中心とした中国・山陰の情勢	益田氏・益田・須佐の動向
平	1114	永久02				藤原貞道(國兼)右見国司として下向。土着して御神本を名乗る
	1115	永久03				
	1116	永久04				
	1117	永久05				
	1118	元永元				
	1119	元永02				
	1120	保安元				
	1121	保安02				
	1122	保安03				
	1123	保安04				
	1124	天治元			中尊寺金色堂成る	
	1125	天治02				
	1126	大治元				
	1127	大治02				
	1128	大治03				
	1129	大治04				
	1130	大治05				
	1131	天承元				
	1132	長承元				
	1133	長承02				
	1134	長承03				
	1135	保延元				
	1136	保延02				
	1137	保延03				
	1138	保延04				
1139	保延05					
1140	保延06					
1141	永治元					
1142	康治元					
1143	康治02				この頃出雲の荘園増加、国衙の収入減少	
1144	天養元					
1145	久安元					
1146	久安02					
1147	久安03					
1148	久安04					
1149	久安05					
1150	久安06					
1151	仁平元					
1152	仁平02					
1153	仁平03					
1154	久寿元					
1155	久寿02					
1156	保元元			保元の乱		
1157	保元02					
1158	保元03				この頃既に阿武郡は皇室御領、後に後白河法皇領となる。	
1159	平治元			平治の乱	平治の乱の後、平家の勢いが西国に伸びる	
1160	永暦元			源頼朝伊豆に配流。		
1161	応保元					
1162	応保02					
1163	長寛元					
1164	長寛02					
1165	永万元					
1166	仁安元					
1167	仁安02			平清盛、太政大臣となる		
1168	仁安03					
1169	嘉応元					
1170	嘉応02					
1171	承安元					
1172	承安02					
1173	承安03					
1174	承安04					
1175	安元元			法然、浄土宗を開く		

室	1418	応永25					
	1419	応永26					
	1420	応永27					
	1421	応永28					
	1422	応永29					
	1423	応永30					
	1424	応永31					
	1425	応永32					
	1426	応永33		近江坂本の馬借一揆			
	1427	応永34					
	1428	正長元					
	1429	永享元					
町	1430	永享02					
	1431	永享03		明兆死	大内盛見、少弐・大友氏と戦って筑前糸島郡深江にて戦死(06/28)	筑前糸島郡深江にて 益田兼理 戦死(06/29)。波田兼政も戦死。	
	1432	永享04				益田常兼没。	
	1433	永享05			大内持世、持盛兄弟豊前・筑前に戦う。持盛敗死(04/04)		
	1434	永享06		勘合貿易船発遣の初め			
	1435	永享07			大蓋寺の鐘銘に「永享乙卯長州阿武郡弥富郷彌高山興禅禅寺」とある	松寿丸に対し起請文提出(07/25)	
	1436	永享08				真砂村住城市勘解由左衛門尉正常、同地に原城を築く	
	1437	永享09					
	1438	永享10					
	1439	永享11					
	1440	永享12					
	時	1441	嘉吉元		嘉吉の変。赤松満祐父子、將軍義教を殺す。次いで満祐(69)ら自殺	嘉吉の変で大内持世も重傷を負い死去(07/28)教弘家を継ぐ。	乱鎮定のため、益田兼亮作州高尾城攻撃に参戦(8/23)
1442		嘉吉02			瑠璃光寺五重塔		
1443		嘉吉03					
1444		文安元			大内氏の山口守護所失火焼失。	赤松一党討伐の命を受く(11/22)文安2赤松の乱平定まで転戦。	
1445		文安02					
1446		文安03		能狂言の完成			
1447		文安04					
1448		文安05					
1449		宝徳元					
1450		宝徳02					
1451		宝徳03					
代		1452	享徳元				四国に河野通治討伐に参戦、吉田・鐘峠峠・味酒の合戦に功あり。匹見小松尾城主大谷左膳を援助し上領・河野軍と戦う
	1453	享徳02					
	1454	享徳03					
	1455	康正元				兼亮九州に出兵、肥後土匪の叛乱鎮定	
	1456	康正02					
	1457	長祿元		太田道灌、江戸城を築く。			
	1458	長祿02					
	1459	長祿03					
	1460	寛正元					
	1461	寛正02			画僧雪舟、大内教弘に招かれて山口に下り、後明国に渡る	大内教弘に属し畠山義就の軍と河内切山に戦う(06/12)。二本松、嶽山に戦う(07/28)。兼亮隠居。 貞兼家督 (10/10)。	
	1462	寛正03				兼亮、嶽山城を攻撃し陥落せしむ(04/10)。更に畠山義就を追い紀伊國に転戦、京都に帰陣(12/10)	
	1463	寛正04					
1464	寛正05						
1465	寛正06			細川勝元、伊豫の河野通春を討つ。教弘兵を率いて伊豫に至り、密かに通春を助ける(06/25)。教弘、伊豫興居島で病死(09/03)			
1466	文正元						
1467	応仁元		応仁の乱起る。	出雲守護の京極持清は東軍、石見守護の大内義弘は河野通春らと西軍に応じて東上、兵庫に至る(07/20)	兼亮、貞兼父子、大内政弘に属し、山名持豊(宗全)の西軍に参戦		
	1468	応仁02					
	1469	文明元		雪舟明から帰国	豊後國守護大友親繁、筑前の少弐頼忠らと拳兵細川勝元に応じ、大内氏の領地を攻略(5月)。仁保盛保、大内教幸を奉じて細川勝元に応ず。政弘土佐の海上で幕府及び細川氏の遣明船を襲い新勘合符を奪う。		
	1470	文明02			大内道頼(大内教幸)東軍に於いて赤間関に拳兵(3月)。石見の諸豪族道頼に加担す。陶弘護、教幸を坎坷に撃つ。教幸は石见到逃れ吉見信頼に頼る。	益田氏は京都にあって大内政弘に属した。陶弘護、誓書を益田貞兼に送り大内政弘を助くべきことを約束する(8月)。	
	1471	文明03			陶弘護、誓書を石見の益田兼貞に送り大内政弘を助けることを約束する(8月)。大内政弘、益田兼亮・貞兼を下向せしめ陶弘護(兼亮娘婿)を応援。弘護、教幸と戦う。教幸敗れて豊前馬岳城に走り、自殺(12/26)	貞兼は長野荘内各地で道頼軍を破り、 長野荘内益田氏の領有となる。	
	1472	文明04			周防国庁焼失。	大内道頼豊前馬嶽城で敗死(01/25)。益田兼亮越中守に任せられる	
1473	文明05						

代	1527	大永07	
	1528	享禄元	
	1529	享禄02	
	1530	享禄03	
	1531	享禄04	一向一揆、朝倉氏と戦う
	1532	天文元	
	1533	天文02	
	1534	天文03	
	1535	天文04	
	1536	天文05	
	1537	天文06	
	1538	天文07	
	1539	天文08	頃、山崎宗鑑「新選犬筑波集」を撰す
	1540	天文09	
	1541	天文10	
	1542	天文11	
	1543	天文12	ホルトガル人種子島に鉄砲を伝える
	1544	天文13	
	1545	天文14	
	1546	天文15	
	1547	天文16	
	1548	天文17	
	戦	1549	天文18
1550		天文19	
1551		天文20	
1552		天文21	
1553		天文22	
国	1554	天文23	
	1555	弘治元	川中島の戦い
	1556	弘治02	
	1557	弘治03	
時	1558	永禄元	
	1559	永禄02	
	1560	永禄03	尾張桶狭間の戦い。今川義元(42)戦死
	1561	永禄04	
	1562	永禄05	
	1563	永禄06	
	1564	永禄07	
	1565	永禄08	
	1566	永禄09	
	1567	永禄10	
代	1568	永禄11	織田信長、足利義昭を奉じ入京
	1569	永禄12	
	1570	元亀元	近江姉川の戦い。信長、浅井長政を破る。
	1571	元亀02	
	1572	元亀03	
	1573	天正元	信長足利義昭を追放。室町幕府滅ぶ。浅井、朝倉両氏滅ぶ。
	1574	天正02	

就
利
隆
元
毛
利
元
隆
毛
就
元
利
輝
元

氏の勢力下に入る
大内義興没(12/20)。義隆家督。
毛利元就嫡男少輔太郎質子となり山口へ下る。義隆これに加冠し偏諱を与え隆元と名付く。
尼子晴久、安芸吉田に毛利元就を攻めて大敗。尼子経久没(84)。
大内義隆、富田城を攻め大敗。尼子晴久、山陰を従え威を振るう
毛利隆元家督(08/12)。
陶晴賢叛乱(8月)。主人大内義隆長門國大寧寺で自刃(09/01)
大友晴英、山口に入り大内氏を継ぐ。名を義長と改める。この頃堺、平戸など隆盛となる
吉見正頼、陶晴賢討伐の拳兵。隆元長男輝元誕生(01/22)
大内義長吉見正頼を津和野に攻める(6月)。この頃阿武郡内の吉見の属村上田万の鹿ヶ嶽城、上小川の平山星城、奈古の柳崎城など陥る。吉見正頼亀王丸を質として和議成る(9月)。
敵島の戦い。陶晴賢滅ぶ。(10/01)吉川元春、石見に侵入、三隅・益田・永安軍と交戦
内藤隆世、杉重輔の邸を襲い放火、山口の市街多く類焼す(03/02)。大内義長、吉見正頼の和議敗れる
大内義長、山口高嶺城を築き(1月)、内藤隆世と共に入城(2月)。次いで長門に走る。吉川元春再び福屋・益田氏討伐に石見に侵入。大内義長長府長福寺で自刃(04/03)。周防・長門毛利元就の領地となる。吉見正頼防府に入り毛利元就に臣礼をとり阿武郡(須佐、小川、大井、川島、福井などと現在の阿東町、むつみ村)などの地を与えられる(4月)。
永安兼政自刃、毛利氏に服従の証とす(12/02)
尼子晴久没(47)。毛利元就即位資献上。
毛利元就大挙して出雲に侵入。洗合を本陣として尼子晴久を富田城に攻める。
毛利隆元没(41)(08/04)。毛利輝元家督相続(08/04)
尼子義久遂に毛利元就に降る(11/21)
山中鹿之助尼子勝久を奉じ拳兵(6月)大友、福屋、周布、三隅が応じる。大内輝弘、大友宗麟の援助を受け、大内氏を再興すると称して周防国吉敷郡秋穂浦に上陸、山口高嶺城を攻める(10/12)。輝弘、山口を脱し佐波郡浮野峠付近で毛利軍の挟撃に遇い茶臼山にて自殺。
浜田石川の戦(4月)、周布篤ノ巢城の戦、茶臼山の戦と戦い相次ぐ。三隅高城陥落。城主隆繁自刃、三隅氏滅ぶ(09/26)。この役で全石見が毛利の支配下に入った。
毛利元就没(75)(06/04)

益
田
元

益田尹兼、陶興房・毛利元就・天野興定らと世能鳥子城に尼子方野村木工允と戦う(03/08)木工允自殺(03/18)
益田藤兼誕生。
吉見氏と匹見川の領堺・漁業権協定
益田藤兼、將軍足利義藤の偏諱を受け藤兼と称す(11歳)
大内義隆に属し富田城攻めに参加敗退
益田宗兼没(01/14)。藤兼家督相続。
藤兼、三隅領に侵入城主興兼高野山に奔る
藤兼、三隅高城に迫り、兼隆に城下の盟を終しむノ藤兼吉見領野戸路城を攻撃。
藤兼、三本松城攻撃(11/13)
毛利・吉川軍と三隅鐘の尾城(02/10)矢懸城(6月)黒見山(09/09)の戦い。永安兼徳は藤兼に身を寄せた。
益田軍宇津川方面に毛利軍と戦う(6月)吉見軍と横山城に交戦、石見に孤立し尼子晴久に通ず。藤兼七尾城を修築し毛利軍に備う。
藤兼三隅大寺(竜雲寺)に座し高城を修築、毛利軍との決戦に備える。藤兼吉川元春に投降(3月)和議成る(5月)
益田藤兼次男、元祥誕生。藤兼初めて毛利氏に加担して板井川に三隅氏と戦う
藤兼、大友宗麟討伐のため吉見正頼らと毛利軍に属し九州に戦う
益田兼貴は突然津和野城主吉見軍に襲われ、自城の長州須佐懸ノ城を守ったが大激戦の末輩下の臣市原地頭以下10名の戦死者を出す(2月)。藤兼、毛利軍に従い尼子氏征伐、洗合に出陣。
益田尹兼没(09/03)
高川大藤、山中鹿之助と一騎討す。
藤兼・元祥父子、芸州吉田に毛利元就を訪問
藤兼嫡子次郎、吉田訪問(1月)元服願出、元就の偏諱を受け元祥と改名
藤兼隠居(02/09)。元祥家督相続(03/09)。藤兼高城後略に参戦(08/27)
田

戸 時 代	1624	寛永元	日光東照宮陽明門成る	毛 利	元	就 祥 益	元
	1625	寛永02					
	1626	寛永03					
	1627	寛永04					
	1628	寛永05					
	1629	寛永06	紫衣事件、沢庵等出羽に配流。				
	1630	寛永07					
	1631	寛永08					
	1632	寛永09	徳川秀忠没(54)				
	1633	寛永10	奉書船以外の海外渡航を禁止、海外渡航者の帰国を制限す				
	1634	寛永11					
	1635	寛永12	參勤交代制確立	秀	宣	田	防長両国大雨洪水。萩城下の被害莫大(7月)。防長両国切支丹改めを行う。
	1636	寛永13	寛永通宝鑄造				
	1637	寛永14	島原の乱起る(10月)				幕命により美祿郡赤村で寛永通宝を鑄造。17年に中止。
	1638	寛永15	島原の乱平ぐ。(2月)				
	1639	寛永16	鎖国。オランダ人の来航を禁す	毛	元	元	秀就 4 男毛利綱広誕生(11/20)
	1640	寛永17					
	1641	寛永18	オランダ人を長崎出島に移す(鎖国完成)				
	1642	寛永19					
	1643	寛永20	田畑永代売買の禁	就	益	田	春定法施行
1644	正保元						
1645	正保02						
1646	正保03						
1647	正保04		利	元	元		
1648	慶安元						
1649	慶安02	慶安御触書(勸農31条)					
1650	慶安03						
1651	慶安04	徳川家光没(48)。大名の末期養子緩和。由井正雪の事件。	網	田	元	防長両国内を18行政区に分け、各区を宰判と称し首長を所務代官と称した 毛利秀就没(57)(01/05)毛利綱広家督(02/20)	
1652	承応元						
1653	承応02					長府毛利綱元、祖父秀元の遺志により叔父元知に豊浦郡清末村など1万石を分知し清末藩成立(10/12)。防長両国に大風雨。	
1654	承応03	キリシタン禁制					
1655	明暦元		広	田	元		
1656	明暦02	家綱公抱癒罹病					
1657	明暦03	江戸明暦の大火。江戸城本丸焼失。死者10万人				萩大照院落成	
1658	万治元						
1659	万治02		毛	益	田		
1660	万治03					万治制法制定(09/14)。大阪土佐堀1丁目に蔵屋敷設置(12/28)	
1661	寛文元						
1662	寛文02	西日本大地震					
1663	寛文03	殉死を禁ず	利	田	兼		
1664	寛文04					郡の統廃合。豊田、豊東、豊西の三郡を豊浦郡に、厚東、厚西の2郡を厚狭郡に復し、大津郡見島郷を割いて見島郡を立て浜崎宰判所管とす(3月)	
1665	寛文05						
1666	寛文06						
1667	寛文07		毛 利	長	益		
1668	寛文08	江戸大火。俵約令				綱広長男吉就誕生(01/21)	
1669	寛文09					食禄200石以下で家計困窮の藩士に在郷居住を許可(03/07)	
1670	寛文10						
1671	寛文11		毛 利 網 利	益 田 兼	長 益		
1672	寛文12						
1673	延宝元	分地制限令				吉川広嘉錦帯橋架橋。毛利綱広次男吉広誕生(01/13)	
1674	延宝02					毛利綱広痰咳の病	
1675	延宝03		吉	益	田		
1676	延宝04					藩債12千貫。100石につき6石の馳走米	
1677	延宝05					初の藩札発行。毛利吉元(長府毛利綱元嫡子)誕生(08/24)	
1678	延宝06	江戸大地震					
1679	延宝07		利	長 益	田		
1680	延宝08	徳川家綱没(40)					
1681	天和元						
1682	天和02						
1683	天和03				綱広隠居。毛利吉就家督相続(02/27)		

熊野検地(五ツ成)。益田元堯、阿武・阿東・佐波11千石を増され23千石となる。

益田就恒誕生

益

益田元祥没(83)(09/22)

田

益田就宣家督相続(09/09)、職役、増野十兵衛宣雅、栗山三郎右衛門勝成(慶安3年まで7年間)

就

職役、益田又左衛門宣豊、増野十兵衛宣雅(03/25)(明和元年まで6年間)

恒

職役、益田又左衛門宣豊、裏判、石津伝右衛門政友(寛文6年まで12年間)

益田元堯没(64)(10/14)

就

益田兼長誕生。職役、石津伝右衛門政友。裏判、閑治左衛門。(元禄7年まで29年間)なお、後治左衛門は安富と左衛門と交代。

益

弥富・鈴野川で紙漉が始まる。
益田就賢誕生(05/15)。妙悟寺を全柳寺と改称し再建さる。
益田就宣没(62)(10/07)益田兼長家督相続

田

益田久之允誕生

就

益田兼長没(14)、久之允家督相続。

江戸時代	1684	貞享元	堀田正俊刺殺さる	毛	利	就	吉	毛	毛利吉就萩入城	田	就	賢	恒	益田久之允没(8)(09/08)、就恒家督相統。丸山八幡宮が現在地に移る。																			
	1685	貞享02																					須佐村で家200戸が焼け、幕府に報告。幕府から見舞い状を受ける。										
	1686	貞享03																															
	1687	貞享04	生類憐みの令																														
	1688	元禄元	元禄時代(～1703)																														
	1689	元禄02																															
	1690	元禄03																															
	1691	元禄04																															
	1692	元禄05																															
	1693	元禄06	井原西鶴没																														
	1694	元禄07	松尾芭蕉没。菱川師宣没。																														
	1695	元禄08	金銀貨改鑄																														
	1696	元禄09																															
	1697	元禄10																															
	1698	元禄11																															
	1699	元禄12																															
	江戸時代	1700	元禄13											毛	利	就	吉	毛	諸士の家計困窮し諸役免除を請う者多く、遂に公務を欠くに至る。三田尻大開作築立。	田	就	賢	恒	法隆寺創建。									
		1701	元禄14																														
		1702	元禄15						赤穂浪士の討ち入り																								
1703		元禄16	江戸大地震																					益田元道誕生(06/06)									
1704		宝永元																															
1705		宝永02																															
1706		宝永03																															
1707		宝永04	諸国大地震。富士山噴火。																														
1708		宝永05	寛永通宝新鑄																														
1709		宝永06	徳川綱吉没(64)、徳川家宣六代將軍宣下(48)。新井白石、間部詮房(あきふさ)を登用。粗悪十文銭鑄造中止。生類憐みの令廃止。																														
1710		宝永07																						益田元道家督。益田広亮誕生(08/23)									
1711		正徳元	江戸大火																					職役、栗山半左衛門勝貞。裏判、大谷理兵衛実延、渡辺源右衛門、兼重安大夫(02/21)(享保2年まで7年)									
1712		正徳02	徳川家宣没(51)(09/14)。諸国大水害。																														
1713		正徳03																															
1714		正徳04	貝原益軒没(85)																														
1715		正徳05	正徳海舶互市新令																														
1716		享保元	七代將軍家継没(4)八代將軍徳川吉宗。享保の改革。尾形光琳没。																														
1717		享保02																						職役、松原勘左衛門近真、石津伝左衛門経世。月替り裏判渡辺源右衛門、兼重安大夫(04/27)(享保4年まで3年)									
1718		享保03																															
1719	享保04													萩当役、石津伝左衛門経世、裏判大賀正右衛門(享保6年まで2年間)																			
江戸時代	1720	享保05	洋書輸入禁止を緩和	毛	利	就	吉	毛	永田政純に藩士及び古社寺の文書調査を命ず。享保10年「萩藩閩閩録」成る。井上親明に命じて両国一村限り明細絵図・石高付境目書及び由来書(地下上申)、寺社由来書を編集させる。	田	就	賢	恒	職役、松原勘左衛門近真。裏判、大賀正右衛門(享保8年まで3年間)																			
	1721	享保06	目安箱設置																														
	1722	享保07	上米の制(1730廃止)																														
	1723	享保08																															
	1724	享保09	近松門左衛門没																														
	1725	享保10	新井白石没																														
	1726	享保11	物価取締令																														
	1727	享保12																															
	1728	享保13																															
	1729	享保14																															
	1730	享保15																															
	1731	享保16																															
	1732	享保17	享保の飢饉。12千人餓死。																														
	1733	享保18	江戸に打ち壊し起る。																														
	1734	享保19																															
	1735	享保20																															
	1736	元文元																															
	1737	元文02																						益田元道、須佐育英館創建。品川希明初代育英館長となる。裏判、松井五郎右衛門添役、大橋助兵衛。医光寺本堂再建(09/10)大橋助兵衛の後任、津田与三右衛門 松原半右衛門									

江戸時代	1738	元文03		利 宗 重 就 広				益 田 益 広 田 堯 就 祥			
	1739	元文04									
	1740	元文05									
	1741	寛保元									
	1742	寛保02	公事方御条書を定む								
	1743	寛保03									
	1744	延享元									
	1745	延享02	徳川吉宗隠居(62)、九代将軍徳川家重(35歳)								
	1746	延享03									
	1747	延享04									
	1748	寛延元	「仮名手本忠臣蔵」初演								
	1749	寛延02									
	1750	寛延03									
	1751	宝暦元	徳川吉宗没(68)								
	1752	宝暦02									
	1753	宝暦03									
	1754	宝暦04									
	1755	宝暦05									
	1756	宝暦06									
	1757	宝暦07									
	1758	宝暦08	宝暦事件								
	1759	宝暦09									
	1760	宝暦10									
	1761	宝暦11									
	1762	宝暦12									
	1763	宝暦13									
	1764	明和元									
	1765	明和02									
	1766	明和03									
	1767	明和04	明和事件								
	1768	明和05									
	1769	明和06									
	1770	明和07									
1771	明和08										
1772	安永元	田沼意次老中となる									
1773	安永02										
1774	安永03	杉田玄白「解体新書」を刊行									
1775	安永04										
1776	安永05										
1777	安永06										
1778	安永07	ロシア船蝦夷地に来航									
1779	安永08										
1780	安永09										
1781	天明元										
1782	天明02										
1783	天明03	天明の大飢饉									
1784	天明04										
1785	天明05										
1786	天明06										
1787	天明07	松平定信老中となる(寛政の改革)									
1788	天明08										
1789	寛政元										
1790	寛政02	寛政異学の禁									
1791	寛政03										
1792	寛政04	林子平「海国兵談」の筆禍									
1793	寛政05										

医光寺、現在の姿となる。	
職役、益田又左衛門兼寧。裏判、増野藤兵衛護信(06/19)(寛保2年まで4年間)	
益田元道没(41)(04/15)、益田広堯家督相続(07/18)職役、入江忠左衛門篤信。裏判、松原半右衛門(08/12)(延享5年まで7年間)	
益田就祥誕生(04/28)	
益田広堯当職に就任。唐津大火、人家殆ど焼失。	
職役波田重内兼厚、裏判仲井半蔵(06/05)(明和元年まで17年間)尚、裏判は半蔵 安富伝二右衛門 仁保嘉内 渡辺源右衛門。	
毛利宗広病死(35)(02/04)毛利重就襲封(04/12) 三老上書。坂時存、長沼正勝、山県昌貞の三老合議して財政改革案を藩主重就に提出。	
毛利重就四男治親誕生(06/15)	
栗山孝庵、萩手洗川刑場で死体解剖(03/05)	
宝暦検地完了(05/14) 宝暦検地による増石を別途会計として撫育仕法創設(10月)	
美濃・伊勢の諸川手伝普請。総経費5,179貫目を撫育局から支出(02/07) 佐波郡大浜開作築立(01/25)	
萩藩に日光の手伝い普請の命 財政再び悪化。士卒に10年の半知馳走を命ず。天災の損耗241千石。 天災の損耗116千石	
萩城天守に落雷(05/26)天災の損耗163千石。3年間で520千石を失う。防長両国人口549,072人(09/19)	
毛利治親家督相続(08/28) 財政再建失敗し臨時に数年間撫育方と本勤統合を建議した当職益田就祥を更迭。後任に毛利内匠就任。毛利治親撫育方仕法確守を命ず。毛利治親次男育熙誕生 士卒困窮甚だしく、財政再建策は天明7年迄の半知を10石懸りに軽減 防長両国に山検地を行い、民林(合壁山=かっべきやま)に課税す。	
財政再建の為、3ヶ年の非常俵約令。当年は15石懸り。 毛利重就没(65)(10/07)	
当職毛利就任致仕、後任に毛利外記就兼。 毛利治親没(38)(06/12)。毛利育房襲封。7ヶ年の俵約令。 当職に佐世任蔵就量。 防長両国の人口592,031人(08/26)	
職役益田又左衛門兼寧再任。裏判渡辺源右衛門(閏12/01)(明和9年まで9年間)源右衛門添役仲井半兵衛(12/28)(同)。波田兼虎、このころ育英館二代館長となる。 益田広堯没(56)(03/02)	
須佐浦で出火、125戸焼失(6月)。 大運寺再建(現在の建物)。 裏判添役、波田東作兼虎(03/24) 萩当役波田東作兼虎、裏判添役、戸田彦右衛門(3月)(安永8年まで8年間) 山科真通、この頃育英館三代館長となる。	
職役益田八郎左衛門致知、裏判戸田彦右衛門(安永9年まで、致知役中死去)八郎左衛門病氣中同役益田左門太兼備、裏判戸田彦右衛門、萩当役増野正蔵(11/21)(天明3年まで5年間)なお左門太兼備は後又右衛門 丹下。 裏判戸田彦右衛門同役松井新之進(12/28)	
益田就祥30日の運塞。 職役増野藤右衛門護嘉、裏判松井新之進(07/01)新之進 大塚四郎左衛門(12/28)	
裏判、大塚四郎左衛門 新之進(07/14)。新之進 松野文右衛門(08/21)	
益田房清誕生(11/10)裏判、松野文右衛門 有田才左衛(12末)	

江戸時代	1794	寛政06		斉	毛	当職に毛利就任再任。江戸大火で桜田・新橋両邸類焼。毛利重就六男親著(もちあきら)長男斉元誕生	田	祥	就						
	1795	寛政07													
	1796	寛政08													
	1797	寛政09													
	1798	寛政10	本居宣長「古事記伝」を完成												
	1799	寛政11													
	1800	寛政12	伊能忠敬、蝦夷地を測量												
	1801	享和元				熙				毛	当職に毛利若狭就宣。毛利斉房公親政始まる。10ヶ年俵約令。撫育方の貯蔵銀を全て本勤繰り入れ。「三ツ成の所務」(10石懸り)発令	房	清	恭	
	1802	享和02													
	1803	享和03													
	1804	文化元	ロシア使節レザノフ、長崎に来航												
	1805	文化02													
	1806	文化03													
	1807	文化04													
	1808	文化05	間宮林蔵、間宮海峡を発見												
	1809	文化06													
	1810	文化07													
	1811	文化08		元	毛	当職に毛利若狭就宣。毛利斉房公親政始まる。10ヶ年俵約令。撫育方の貯蔵銀を全て本勤繰り入れ。「三ツ成の所務」(10石懸り)発令	清	宣	恭	益田元宣誕生(01/13)					
	1812	文化09													
	1813	文化10													
	1814	文化11													
	1815	文化12	杉田玄白「蘭学事始」を著す												
	1816	文化13													
	1817	文化14													
	1818	文政元													
	1819	文政02													
	1820	文政03													
	1821	文政04		毛	毛	5ヶ年の非常俵約令。伊能忠敬、両国内を測量(01/20)	房	田	元	宣					
	1822	文政05													
	1823	文政06													
	1824	文政07													
	1825	文政08	外国船打払令を発す												
	1826	文政09													
1827	文政10														
1828	文政11	シーボルト事件													
1829	文政12														
1830	天保元		熙			毛					15石懸り(文化11迄)	房	田	元	宣
1831	天保02														
1832	天保03														
1833	天保04														
1834	天保05														
1835	天保06														
1836	天保07														
1837	天保08	大塩平八郎の乱													
1838	天保09														
1839	天保10	蛮社の獄													
1840	天保11		毛	毛	12石懸り。馳走米石別4升5合。	房	田	元	宣						
1841	天保12	天保の改革													
1842	天保13														
1843	天保14														

江戸時代	1844	弘化元		毛利
	1845	弘化02		
	1846	弘化03		
	1847	弘化04		
	1848	嘉永元		
	1849	嘉永02		
	1850	嘉永03		
	1851	嘉永04		
	1852	嘉永05		
	1853	嘉永06	アメリカ使節ペリー浦賀に来航(06/06)。攘夷、開国論広がる。	
	1854	安政元	ペリー再来。日米和親条約調印	
	1855	安政02		
	1856	安政03		
	1857	安政04		
	1858	安政05	井伊直弼、日米修好通商条約調印	
	1859	安政06	安政の大獄	
	1860	万延元	桜田門外の変	
	1861	文久元		
1862	文久02	生麦事件		
1863	文久03	8・18の政変。長州藩堺町御門警衛を解任され京を追放さる。七卿都落ち。		
1864	元治元	池田屋の変(06/05)、蛤御門の変(07/18)。第1次長州征伐(07/25)。英仏米蘭四カ国連合艦隊、下関に襲来(08/05)。外艦と和議成立(08/14)。徳川慶勝、吉川経幹に敬親父子の伏罪書呈出、山口城の破却、三条実美ら五卿の他藩移転を命ず(11/19)。		
1865	慶応元	朝廷、幕府の長州再征を許可(09/21)。幕府、彦根藩以下31藩に出兵を命じ、徳川茂承を征長先鋒総督となす(11/07)。		
1866	慶応02	第2次長州征伐(04/12)徳川家茂没(07/20)。幕府、征長諸藩に撤兵を命ず(09/19)。孝明天皇薨御(12/25)。江戸・大阪に打ち壊し起る		
1867	慶応03	明治天皇即位(01/09)。薩長に倒幕の密勅(10/14)。同日大政奉還。王政復古の号令を発し、摂政・関白・将軍などを廃し、新たに総裁・議定・参与を置く。徳川慶喜将軍辞職(12/09)。		
1868	明治元	鳥羽伏見の戦(戊辰戦争)(01/03)。明治維新。五箇条のご誓文		

敬親	1844	村田清風退陣。両国大洪水(05/26)。外国船の来襲に備えて長門北浦海岸を7地区に分け各方面防備の總奉行を任命す(7月)。
	1845	萩その他瘧瘧流行、死者多数(06/27)
	1846	戸籍法改正(07/08)。岩国有坂長為、西洋流白砲・忍砲製造。
	1847	外国船防衛を訓令(04/08)。
	1848	海防の部署を定める(06/25)幕府、豊浦郡神田岬沖に砲台増築許可(11/20)。小野為八、西洋砲術を習得し長崎より帰る(11月)
	1849	藩内初の種痘実施(10/02)岩国領内で種痘法実施、瘧瘧遠慮法を改定。
	1850	両国洪水(05/12)。両国大風雨洪水(06/01)。両国大風雨、米価騰に高騰(7-8月)。
	1851	
	1852	毛利敬親北浦沿岸巡視(閏02/26)。
	1853	長州藩は大森に出兵。敬親對外策を幕府に答申(08/23)。長州藩、相模國西浦賀から腰越八王子山に至る海岸警備を担当(11/14)。両国、洪水干魃など被害高207,717石2斗余。
	1854	吉田松陰ら米艦に搭乗を図り果たさず捕らえられる(03/27)。秋菊が浜で水陸連合の大演習(06/16)。両国地震(11/05)。
	1855	村田清風没(05/26)。敬親、海防充実の論書を下す(08/31)。西洋学所開設(09/01)。
	1856	船匠を伊豆戸田村に派遣し洋式艦船の造法を、伝習させる(01/22)。軍艦製造所、萩小畑に設立(04/24)。両国人口調査507,369人(8月)。銃陣演習の調練場、山口講習堂の隣地に設置(10/25)。丙辰丸(萩最初の洋式軍艦)進水式(12/17)。風水干魃被害高52,415石6升4合9勺。
	1857	吉田松陰、松下村塾をおこす(11/05)。敬親、外交問題で幕府へ答申(11/28)。
	1858	長州藩、天朝に忠節、幕府に信義、祖先に孝道の三藩是確定(05/27)。毛利氏に密勅賜る(戊午の密勅)(08/21)。萩上ノ原に反射炉建設。
	1859	吉田松陰、江戸伝馬町の獄で処刑さる(10/27)。萩城西浜に砲台構築(12/10)。
	1860	兵制を洋式に改革、歩・騎・砲3兵の教練課程を定む(02/20)。萩城下西の浜操練場落成(03/21)。桂小五郎ら水戸藩士西丸帯刀らと江戸湾停泊の丙辰丸船内で盟約(07/22)。
	1861	航海遠略策を藩是に定む(03/28)長井雅楽上京して正親町三条実美に入説(05/15)
1862	長井雅楽航海遠略説を朝廷に建白。反対論に敗る(03/18)。藩議即時攘夷に決す(07/06)。英商から火輪船壬戌丸を購入(09/02)。高杉晋作ら攘夷貫徹の血盟、横浜外国館襲撃を企つ(11/13)。高杉等江戸品川御殿山の英国公使館焼き討ち(12/12)	
1863	毛利敬親萩城を去り山口に移る(04/16)。山口移鎮告諭(07/20)。馬関攘夷戦争始まる(05/10)。志道(井上)聞多・伊藤俊輔・山尾庸三・遠藤謹助・野村弥吉ら航海術修学のため渡英(05/12)。第二次馬関攘夷戦(05/23)。高杉晋作奇兵隊結成(06/07)。政事堂を山口中河原の御屋形内に設け、山口政事堂と称す(06/18)。坪井九右衛門処刑(10/28)	
1864	周布政之助自刃(09/26)。井上聞多暗殺(09/29)。諸隊解散令(10/21)。中山忠光暗殺(11/05)。本藩俗論派政府幕府に恭順を示すべく、蛤御門の変の責任者たる益田親施、国司信濃、福原越後の三家老を切腹せしめ(11/11-12)、松島剛蔵ら七人斬首(12/18)、清水清太郎切腹(12/25)。高杉晋作功山寺に拳兵(12/16)俗論党敗退。	
1865	絵堂の戦で諸藩政府軍を破る(1月)。俗論党政府転覆、正義派が主導権握る。藩内内訌戦終結す(02/02)。藩論を武備恭順に再統一(03/23)。坂本龍馬、赤間関にて桂小五郎と会談、長薩和解の端緒を開く(閏05/01)。棕梨藤太ら処刑(05/28)。毛利元徳長男元昭誕生(02/07)。	
1866	薩長同盟(01/21)。毛利敬親、山口新屋形(のちの山口県庁)に移る(05/15)。長崎で英商から鉄張蒸気船丙寅丸を購入(5月)。四境戦争始まる(06/07)。長州軍浜田城攻略(07/18)。長州軍小倉城攻略(08/01)。芸州口で幕軍を破る(08/07)。勝海舟、蔚島で長州藩広沢兵助らと休戦協議(09/02)	
1867	高杉晋作没(04/14)。長薩両藩倒幕出兵を協約(09/19)。長薩両藩倒幕出兵密約(09/21)。	
1868	吉川経幹を藩屏に列する。岩国藩成立(03/12)。敬親、朝命を奉じ上京(05/11)。藩職制改革。政事堂を議政・施政・会計・民政・軍政・社寺・学校・聴訟・撫育・好生・監察の11局とし外局に物産局を特設(11/03)。萩城解除を命じ蔵元内の諸役所を萩明倫館へ移す(11/10)	

田親	1844		益田
	1845		
	1846		
	1847		
	1848		
	1849		
	1850		
	1851		
	1852		
	1853		
	1854		
	1855		
	1856		
	1857		
	1858		
	1859		
	1860		
	1861		
1862	益田精祥誕生(01/09)		
1863	益田親施、脱走七卿を供奉し帰藩(08/26三田尻)。中山忠光、弥富全柳寺に20日間隠棲す(10月)。		
1864	益田親施、兵6百を率いて上京。男山に着陣(07/15)蛤御門の変では後詰めとして天王山本陣に留まるも敗報に接し帰国。須佐帰邑08/06。徳山惣持院に幽閉さる(08/15)。事件の責任者として切腹(11/11)。		
1865	親施公の冤罪を雪ぎ正義貫徹の議起る。正義派は回天軍を創立(02/06)、俗論党の邑政堂は北強団を組織し互いに抗争、「須佐内訌事件」に発展す。大谷樸助、河上範三切腹(03/01)。益田・福原・国司の三家老名家再興(3月)。		
1866	坂上忠介育英館六代館長となる(5月)。		
1867			
1868			

明治	1869	明治02	毛利敬親に王政復古の褒勅(02/11)。版籍奉還(06/12)。	利 元 徳
	1870	明治03	平民に名字の使用を認める(9月)。	
	1871	明治04	戸籍法公布、壬申戸籍編成着手(04/05)。廃藩置県(4月)。脱刀令(8月)。	
	1872	明治05	全国募兵の詔(11/28)。徴兵告諭。太陽暦を廃し太陽暦を用いる(11/09)	
	1873	明治06	徴兵令公布。地租改正条例公布。	
	1874	明治07		
	1875	明治08	千島・樺太の交換	
	1876	明治09	魔刀令(3月)	
	1877	明治10	西南の役	
	1878	明治11	陸軍士官学校設立。竹橋事件。	
明治	1879	明治12		
	1880	明治13		
	1881	明治14	陸軍兵科として憲兵創設(01/14)。憲兵条例公布(03/11)	
	1882	明治15	軍人勅諭下賜(01/14)。日本銀行設立。壬午事変(07/23)。	
	1883	明治16	陸軍大学設立。	
	1884	明治17	甲申事変	
	1885	明治18	太政官制を廃し内閣制度実施。伊藤博文が初代の内閣総理大臣となる(12月)。坪内逍遙「小説神髓」	
	1886	明治19	6鎮台を師団と改称。海軍条例公布。	
	1887	明治20		
	1888	明治21	軍制改革。鎮台を廃止し師団編成に改組、近衛と六師団で7師団となる。	
明治	1889	明治22	大日本帝国憲法発布。徴兵令全面改定。兵役を常備兵役、後備兵役、国民兵役とし常備兵役を現役と予備役に分けた。兵役は現役3年(海軍4年)、予備役4年(海軍3年)、後備役5年計12年とした。	
	1890	明治23	府県生、郡制公布(5月)。第1回衆議院選挙行う(07/01)。帝国議会開く(7月)。北里柴三郎、破傷風血清療法を発見。教育勅語公布(10月)。	
	1891	明治24	度量衡法公布(3月)。	
	1892	明治25		
	1893	明治26		
	1894	明治27	日清戦争勃発	
	1895	明治28	下関条約調印。三国干渉。	
	1896	明治29		
	1897	明治30	金本位制確立。志賀潔、赤痢菌発見。	
	1898	明治31		
明治	1899	明治32	改正条約施行	
	1900	明治33	北清事変	
	1901	明治34		
	1902	明治35	日英同盟成立	
	1903	明治36		
	1904	明治37	日露戦争勃発	
	1905	明治38	ポーツマス条約調印	

親	毛利敬親隠居。毛利元徳家督相続(06/04)。毛利元徳山口藩知事に就任(06/17)。長府藩を豊浦藩と改称(06/20)。毛利元敏を豊浦、毛利元蕃を徳山、毛利元純を清末、吉川経幹を岩国の各藩知事に任命(06/26)。山口藩、人口507,819人。元徳、常備軍2,000人を御親兵とすることを請い朝廷これを容れる(11/15)。常備軍の選にもれた諸隊士山口を脱走(脱走騒動)(11/30)。諸隊暴動に付、元徳直諭書を發す(12/08)。秋作不熟の為、大津郡、美祢郡百姓一揆、次いで厚狭郡吉田、舟木の農民動揺。	親 祥
	脱走兵、士民を指揮し大森奥浜田宰判所襲撃(01/13)。脱走兵、山口藩議事館を包囲(01/21)。常備軍と支藩兵で脱走兵を討伐(02/09)。藩職制改革(閏10/08)。	
	毛利敬親没(53)(03/28)。徳山藩を廃し山口藩に合併(06/19)。廃藩置県で山口・岩国・豊浦・清末の4県を置く(07/14)。山口・岩国・豊浦・清末の4県を廃し、改めて山口県を置く(11/15)中野梧一に県参事発令。人口827,536人。	
	全国に先駆け地租改正に着手(9月)。山陰地方に大地震(4月)。大庄屋、庄屋制度廃止(4月)、戸長・副戸長を置く(10月)。須佐浦で出火125戸焼失(5月)。須佐郵便局開設(個人開業)(11月)。	
	県内行政区を改正、3支庁19部制を廃し、21大区、266小区とす(06/12)。学区を画定し県内を6中学区、1,418小区に分ける(7月)。官民協同の県会(山口県議会の前身)開設(12/02)。	
	中野梧一、山口県県令となる(8月)。土族授産局および協同会社山口に設立(11月) 山口県人口844,550人	
	山口土族授産局、土族就産所と改称(5月)。熊本神風連の乱。萩の乱(10/26)。秋月の乱。前原一誠処刑さる(12/03) 県下にコレラ流行(9月)。	
	大小区制を廃し、県下を12郡1区とし、大小区扱所を廃し郡役所・戸長役場と改める(01/06)。2ヶ月に亘りコレラ流行(6下旬)	
	山口中学校萩分校が独立し県立萩中学校と改称(6月)。 小野田セメント製造会社設立(05/03)。改正教育令により町村立小学校設置区域及び校数改定(9月)。この年赤間関、安岡村にコレラ流行、死者約500人。	
祥	赤間関港を対朝鮮貿易港に(2月)	
	天皇三田尻に上陸、山口に行幸(07/29)。	
	明治17年の新地租条例に基づき県下の土地丈量、土地台帳と地籍図編成(明治21年完了)。コレラ流行(7月)。	
	大風雨洪水。各地被害甚大(07/31)。	
	市政及び町村制を実施。従来の102町620村を1市4町224村とす(04/01)。山口県人口927,973人。	
	米価暴騰(13円台)、赤間関市民一揆買方問屋・米商会所などを襲う(6月)。コレラ流行(8月)。	
	天然痘流行(3月)	
親	赤間関春風楼にて日清講和条約調印(04/17)	
	毛利元徳没(58)(12/25)。毛利元昭家督相続(01/21)。県下に郡制を施行(9月)。	
	歩兵第42聯隊、廣島から山口新兵營に移転(08/08)。山陽鉄道、廣島―徳山駅間開通(09/25)。	
	山陽鉄道、徳山-三田尻(防府)駅間開通(03/17) 山口県人口201,754人	
	山陽鉄道、三田尻―厚狭駅間開通(12/03)	
	山陽鉄道、厚狭―赤間関駅間開通。山陽本線全通(05/27)	
	赤間関市を下関市と改称(06/01)県下各地でコレラ流行(7月)	
	ザビ病蔓延し麦不作、8割減収となる。	
	山口歩兵第42聯隊、日露戦争に出征(09/29)山口県人口1,020,305人	
	近藤清石著「山口県風土誌」完成(3月)。関釜連絡船運航開始(09/11)。日露戦争出征の山口歩兵第42聯隊山口に凱旋(11/29)。	

益	田	招魂社(三蔭山神社)を山口藩兼重厚平が創立(1月)。	
	精		
	田		
	親		
	祥		
	益	田	県内行政区、須佐村・弥富村・鈴野川は第21大区に入る(6月)。須佐小学校創立(12月)。
		精	弥富小学校は小川小学校弥富分校として市の民家を借りて開校す(2月)。 小川小学校弥富分校は校舎を新築し、弥富小学校として独立す。 畔頭廃止(6月)。須佐巡査分屯所開設(11月)。
		田	須佐巡査分屯所を萩警察署須佐分署と改称(3月)。弥富小学校焼失再建(6月)。 鈴野川小学校が弥富小学校の分校から独立
		精	大小区政廃止に伴い、須佐村、弥富上村、弥富下村、鈴野川村となる(1月)。学制を廃し、教育令制定(9月)。
		田	弥富郵便局開設(1月)。村会議員選挙を行う。
親			
祥		須佐小学校を育英小学校と改称。初等科・中等科・高等科で編成(7月)。	
益		田	益田親祥没(45)(10/26)。弥富郵便局廃止。須佐分署弥富巡査派出所開設(9月)。須佐登記所開設(12月)。
		精	
		田	
	親		
	祥	市制・町村制実施に伴い須佐村、弥富村(弥富上村、弥富下村、鈴野川村合併)となる(4月)。県令により各町村に役場開設、須佐村役場は横屋丁に、弥富村役場は下市のおかれる(4月)。弥富巡査派出所を巡査駐在所と改称(4月)。田村直武初代須佐村長となる(5月)。有田歌治初代弥富村長となる(6月)。	
	田	光謙寺再建。	
	精	松野献通須佐村長となる。 松井章吉弥富村長となる(5月)。須佐警察分署と改称する(11月)。 大谷実継須佐村長となる。消防組結成。	
	親	阿武・見島の2郡合併し阿武郡とする。須佐・弥富計7,773人。大谷実継須佐村長となる。 須佐郵便局電報取り扱い開始(3月)。歩兵第42連隊山口移転に伴い、阿武郡の徴兵は山口に入営する(8月)。このころ須佐で自転車に乗り始める。 増野英亮須佐村長となる(5月)。	
	祥		
	益	中村直徳須佐村長となる(5月)。 日本海海戦で須佐湾沖に砲声響く。077兵須佐に漂着(5月)。須佐村中畑で出火、山林300町歩と人家14戸焼失(5月)。	

大正時代	1906	明治39	南満州鉄道株式会社設立
	1907	明治40	
	1908	明治41	帝国在郷軍人会創立(11月)。
	1909	明治42	
	1910	明治43	大逆事件起る。 韓国併合 。
	1911	明治44	野口英世、梅毒死 0-9純粋培養成功
	1912	大正元	明治天皇崩御 (7月)。
	1913	大正02	憲法擁護運動起る
	1914	大正03	第1次世界大戦勃発 。ドイツに宣戦布告(8月)。
	1915	大正04	
	1916	大正05	
	1917	大正06	
	1918	大正07	シベリヤ出兵。米騒動。
	1919	大正08	
1920	大正09	国際連盟加入	
1921	大正10		
1922	大正11	ワシントン条約	
1923	大正12	関東大震災 (9月)。	
1924	大正13		
1925	大正14	治安維持法・普通選挙法公布。第2回国勢調査(10月)。	
昭和時代	1926	昭和元	大正天皇崩御 (12月)。
	1927	昭和02	金融大恐慌起る
	1928	昭和03	普通選挙第一次衆議院議員総選挙(02/20)
	1929	昭和04	
	1930	昭和05	金輸出解禁。ロンドン条約。
	1931	昭和06	満州事変勃発 。金輸出再禁止。
	1932	昭和07	5・15事件。満州国建国。
	1933	昭和08	国際連盟脱退
	1934	昭和09	
	1935	昭和10	
	1936	昭和11	2点26事件。日独防共協定締結
	1937	昭和12	日中戦争起る 。
	1938	昭和13	国家総動員法発令(4月公布、5月5日施行)。国民健康保険法公布(07/01施行)。
	1939	昭和14	第2次世界大戦 (~45)。ガソリン統制で木炭自動車に変わり始める。
	1940	昭和15	日独伊三国軍事同盟。砂糖の切符制実施(6月)。飯米、木炭、その他生活必需品の切符制実施(8月)。
	1941	昭和16	小学校が国民学校となる(04/01)。 太平洋戦争勃発 (12/08)。
	1942	昭和17	衣料切符制、味噌・醤油配給統制実施(2月)。金属回収令により寺院の鐘、仏具など強制供出命令(5月)。
	1943	昭和18	学徒動員、工場や農村へ派遣される(6月)。
	1944	昭和19	サイパン島日本守備隊全滅(7月)。
1945	昭和20	米軍沖縄本島に上陸(4月)。主食配給量2合4勺を2合1勺に改正(7月)。ボツダム宣言受諾(8月)。 降伏文書調印 。財閥解体、農地改革、労働組合法公布	
1946	昭和21	新円切り替え、預貯金封鎖(2月)。 婦人参政権 が認められ男女平等の衆議院総選挙実施(4月)。主食配給量2合1勺を1合9勺に改正(4月)、食糧事情悪化、インフレ昂進。 日本国憲法 公布(11月)。	
1947	昭和22	6・3・3制新教育実施。国民学校は小学校に復す(4月)。第1回参議院選挙(4月)。 大日本国憲法 施行(5月)。	

東京一下関間直通急行列車運転開始(04/16)
山陽鉄道を国有鉄道とす(01/07)。萩に電灯がつく(10月)。
山口県人口1,058,684人
山口県人口1088,898人
国鉄山口線、小郡ー山口駅間開通(02/20)
米騒動 。柳井・小串・萩・岩国・宇部など各地に波及(08/12)。15日宇部に歩兵42聯隊出動。暴徒即死12名、負傷11名、検挙1,600名。日本汽船(株)笠戸造船所(現日立製作所笠戸工場)操業開始(2月)
山口歩兵第42聯隊の 出 兵(08/10)
山口歩兵第42聯隊の 出 兵(09/14)。 第1回国勢調査 、山口県人口1,041,013人
日本汽船(株)笠戸造船所、日立製作所に合併(2月)
山口線、石見益田駅まで開通。 山口線全通 (04/01)。郡制廃止(4月)。
長門三隅ー萩駅間開通。美祢線全通(04/01)。山口県人口1,094,544人
郡役所廃止(06/30)
宇部鉄道、小郡ー宇部間全通(10/29)
第3回国勢調査、山口県人口1,135,637人
山口歩兵第42連隊に出動命令(12月)。
萩市の市政施行(07/01)
須佐ー宇田郷間開通し 山陰本線全通 (02/24)
国鉄、岩徳線全通(12/01)
下関ー対馬間電話開通(01/25)
山口歩兵第42連隊に出動命令(8月)。
降雨殆ど無く田の植付け阿武郡で僅か2割。
山口県人口1,294,242人
関門海底トンネル下り線工事完成(06/11)関門海底トンネル開通し、東京ー鹿児島間に直通列車運転開始(11/15)
学徒動員により萩中、萩高女は光海軍工廠へ派遣さる(8月)。
徳山市 第一回空襲、 岩国 陸軍燃料廠・興亜石油被爆(05/10)。 下関市 被爆(06/29。)宇部市被爆、市の1/4(07/02)。 徳山 第二回空襲、海軍燃料廠ほか焼失(07/28)。 岩国 被爆(08/04)。 光 海軍工廠、 岩国駅周辺 被爆(08/14)。第一回引揚者7,000名関釜連絡船で大陸から仙崎港に帰着(09/02)。山口県人口1,356,491人
第6回国勢調査、山口県人口1,479,244人

須佐から宇田、江崎、弥富間の道路開通 。
阿武郡教育委員会創立(2月)。
久原波止場完成(久原房之介7千余円の寄附による)。
久原房之介、母と来須佐、浄蓮寺で法要、園遊会を築港広場で開催(5月)。久原房之介来萩、指月公園で園遊会を開く(交響楽団・自動車の見聞のはじめ)(6月)。平川定致須佐村長となる(9月)。須佐農会創立。
「阿武郡史」刊行(10月)。 下関ー益田間県道開通 。久原奨学資金創設。
益田精祥没 (56)(08/25)。 須佐地区に電灯 がつく。戸数1,051、灯数1,719灯。
須佐洪水被害、浸水家屋350戸、橋流失2、家屋流失2、堤防決壊11箇所250間、田畑荒廃43町歩、市街全部床上浸水(7月)。
仁保内蔵榎須佐村長となる(8月)。須佐・弥富人口7,205人、1,708世帯。
弥富村字河内で山火事、40町歩焼失(4月)。津田五百名須佐村長となる(7月)。大洪水、須佐川氾濫(7月)。
須佐、大雨洪水、山崩れ、堤防・橋・家・田畑流失(6月)。
須佐町制施行、津田五百名初代町長となる(2月)
須佐・弥富人口7,160人、1,695世帯。
弥富に電灯がつく(3月)。電話開通(須佐ー江崎間及び萩方面)、須佐ー益田間ハイヤー営業開始(3月)。
第1回普通選挙で久原房之介当選(2月)。須佐湾が国指定名勝天然記念物に指定さる(3月)。須佐駅開設(須佐ー益田間開通)(3月)。
須佐郵便局電話交換業務開始。津田常名没(84才、9月)
須佐・弥富人口7,151人、1,719世帯。
紹光寺午前5時過ぎ出火、山門を残し焼失(損害1万円)(3月)。
堀野美治須佐町長となる(10月)。
津田五百名須佐町長となる。
吉賀恒太郎須佐町長となる(7月)。第4回国勢調査、須佐・弥富人口6,948人、1,694世帯(10月)。
堀野美治須佐町長となる(12月)。
高山磁石石、国指定天然記念物に指定 さる(12月)。
津田五百名須佐町長となる(6月)。
須佐地区山火事200町歩を焼失(8月)。
第5回国勢調査、須佐・弥富人口6,446人、1,559世帯。
須佐付近を震源とする地震発生 、道路に亀裂、崖崩れ発生(4月)。
須佐で大雨、行方不明1名、鉄道崩れ2箇所、家屋浸水170、崖崩れ2箇所(7月)。
松原浄二須佐町長となる。
萩高女3年生が奈古・須佐の日本耐火煉瓦工場へ派遣さる(4月)、08/17動員解除。 連合軍須佐へ進駐 (8月)。
田村忠雄須佐町長となる(10月)。
田村忠雄須佐町長となる(4月)。
増野忠須佐町長となる(6月)。
須佐・弥富人口8,432人、1,983世帯。

平成時代	1990	平成02				
	1991	平成03	金融引締め、株価下落でバブル経済終焉。中小金融機関破綻続き金融危機高まる。			第15回国勢調査、須佐町人口4,383人、1,504世帯。
	1992	平成04				国道315号線須佐バイルズ全線開通(3月)。台風19号により人家・田畑・山林に大被害、総額188.6百万円(9月)。
	1993	平成05				
	1994	平成06				
	1995	平成07	円相場対ドル180円を突破(4月)、阪神大震災、地下鉄サリン事件発生。			
	1996	平成08				
	1997	平成09				
	1998	平成10				
	1999	平成11				
	2000	平成12				
	2001	平成13				
	2002	平成14				
	2003	平成15				
	2004	平成16				
2005	平成17		萩市と須佐町、田万川町、川上村、むつみ村、旭村、福栄村の1市2町4村合併(03/06)。24,794世帯、人口60,289人、面積698.85km ²			
2006	平成18					
2007	平成19					
2008	平成20					
2009	平成21					
2010	平成22					